

レジユメの書き方

レジユメという言葉を知ったことはありますか？ フランス語で「摘要、大意」という意味で、広義にはそれをプリントしたものを言います（新明解国語辞典より）。発表するとき、発表内容を聞き手に伝わりやすくするために、補助的に利用する資料です。ゼミで発表するときなどは、用意しておくべきでしょう。ここでは、自分の読んだ論文を発表（紹介）する場合に用意するレジユメについて、その書き方を簡単に紹介しておきます。

まず、レジユメを作る場合に、どのような状況で発表するのかを考える必要があります。大きく分ければ、発表を聞く人もその論文を持ち、また読んできているような場合と、発表を聞く人がその論文についての知識がほとんどない場合があります。発表をする相手の特徴が違うのですから、当然発表者側も用意するレジユメを変えなければなりません。発表を聞く側の知識が少なければ少ないほど、レジユメの内容は濃くならざるを得ないことはおわかりでしょう。ここでは聞く側の知識が少ない場合のレジユメについて、1つの目安みたいなもの（私の経験から出てきた目安です）を示しておきましょう。なお、聞く側の知識が多い場合のレジユメは、少ない場合のレジユメから内容を削っていけばいいわけです。ちなみに、発表時間も考えて作る必要もあります。

付け加え的にもう一つ。ここ数年、多くのレジユメを見させてもらってきました。やはりその中には、どう考えてもいただけないものがあります。それは、「人に見せるもの」であり、「発表する内容をわかってもらう」ためのものであるという、レジユメの基本的な姿勢が見られないものです。自分が論文を読むために作ったメモみたいなものを、そのままワープロで打ち出したようなものがあります。これはもう、レジユメと呼べるようなものではありません。少なくとも、このレジユメの持つ基本的な意味だけは理解して作ってください。

聞く側の知識が少ない場合のレジユメ

論文というものは、必要十分な内容で構成されていることが前提です。つまり筆者は、これ以上書かなければならないこともないし、これ以上削る部分もない、という妥協点を見いだして執筆しています（理想的には、とっておいたほうがいいかもしれませんが）。ですから、これを簡単にまとめ直すという作業は、土台無理な話なのです。そうすると、短くするには何かを落としていかなければなりません。何を落とすか、何を残すかの選択が、レジユメの出来を決めることとなります。基本的には、中学や高校の国語でやったような要約をするのと同じ要領です。続いて、論文の部分部分で説明しましょう。

まず論文では、問題提起や目的の部分があります。どのような問題があって、どのような先行研究がなされており、今回はどのようなことを目的としているのか、などなどが綴られていると思います。ここはまとめ甲斐があると思います。論旨がどのように展開されているかがわかったら、かなり簡潔にまとめられると思います。でも聞いている人は、全くその論文を読んでいないのですから、落としたり分りにくくなるような部分は残さなければなりません。基本的には、その論の骨子（骨組み）を抽出し、どうしても必要な肉だけを付けていくという作業になるでしょう。

次には、方法が書いてあります。ここは、短くしにくい、場合によっては量が増えてしまうと思います。誰に対して、どのような調査や実験、観察を行ったのかについては、情報を落とすと聞き手は研究の内容自体がよくわからなくなってしまいます。また調査の場合では、

レジユメの書き方

「誰々が作った何とかという尺度を利用した」などと書いてある場合があります。これをそのままレジユメに書いたのでは、読んでいるほうは「どんな項目の尺度なんだろう」と疑問が増えるだけです。このような場合には、必ず現物を調べてきて添付しておきましょう。慎重に要約しなければならない部分です。

最後に、結果や考察の部分があります。発表を聞く側は、その論文を持っていないことが前提ですので、論文に掲載されている図表のたぐいはレジユメに載せておく必要があります。基本的には、結果としてわかったことは、落とすことなく記載しておくべきでしょう。難しいのは、その結果を著者が考察している部分の要約です。論文では、結果（断定できる部分）と考察（そこから妥当に推測できる部分）を、はっきりと分けて書いてあると思います。分けるというのは、「結果」「考察」と書くパートを分けてあるという意味もありますが、「である」と「だろう」というように表現上で区別してあるということです。筆者は、このような1つひとつの表現に注意しながら書いていますので、まとめるときにも注意しておいてください。

聞く側の知識が多い場合のレジユメ

当然、聞く側の知識が少ない場合のレジユメよりも分量が少なく済みます。かなり大きく落とせる部分の代表は、結果の図表です（聞き手が論文を持っているならばですが）。しかしそれ以外は、それほどかわりません。

その他

よく忘れる人がいるのですが、論文タイトル、出典雑誌名（巻号）、ページ、発表年、著者名などは必ず書いておきましょう。これは、それを手掛かりに元の論文を探そうことができるように書いておくものです。

また、自分がその論文を読んで考えたことや感じたこと、問題点などを、出来るだけ最後にまとめて書いておいてほしいと思います。皆さんが論文を読むということには、その目的の一つに、自分で新たな研究をするための肥やしにするということがあります。そのため、その論文の悪い点そしてその部分の改良についてはもちろん、良い点や現象を見る視点についても結局的にコメントしてほしいと思います。

最後に、やはり見た目は重要です。パッと見て一面が文字で埋められていると、やはり読み出すのに力がいるでしょう。フォントの大きさを使い分けたり、見出し番号を利用したり、また「」 「・」 「」 などを使って、どういうふうに表示したら読みやすいのか、わかりやすいのかを必ず考えておいてください。各自で工夫してもらえることを期待しています。でも見た目が重要だからといって、ワープロに入っているキャラクターのスタンプなどを使うのはちょっと...

最後に

皆さんは、今後幾度もレジユメを作る機会に出会うことでしょう。その場合に考えておいてほしいことは、「発表する内容をわかってもらう」ための補助資料としてレジユメを作っているということです。ここだけきちんと押さえておけば、大失敗のレジユメにはならないでしょう。発表し、その反応を確認するという繰り返しでうまくなっていくと思います。補助資料だからとバカにするなかれ！